

# HTML TIPS & TRICKS

第 16 回

## 誰よりも早く 最新のHTMLを使ってみよう

藤井幸孝 白畑 真

ここ何回か、インターネットエクスプローラとネットスケープナビゲーター、両最新ブラウザ4.0の機能を使ったTIPSをお届けしてきた。ActiveXやダイナミックHTML、スタイルシートやレイヤーを利用したアニメーションや特殊効果を紹介してきたわけだ。今月はそうした最新機能のほかに、バージョン3でも使えるTIPSや、スクリプトを使ってブラウザとバージョンの違いを解決するTIPS & TRICKSをお届けする。

### このコーナーを楽しむために

最新のHTMLを使う際に、どうしても避けて通れないのがWWWブラウザの互換性の問題だ。そこでこのコーナーでは、TIPSごとにブラウザの対応状況をアイコンで表している(4月10日現在)。これを参考に使用するWWWブラウザを選んでほしい。



インターネットエクスプローラ3.0以上



インターネットエクスプローラ4.0以上



ネットスケープナビゲーター3.0以上



ネットスケープナビゲーター4.0以上



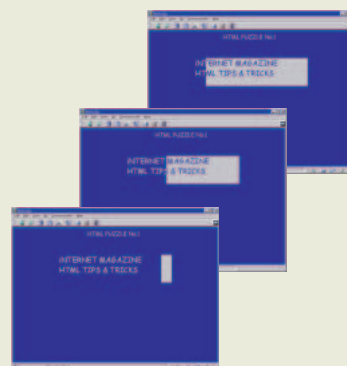
## 5月号「HTMLパズルに挑戦しよう」の解答

残念ながら、今回の正解者はたった1人だった。レイヤーの機能がまだまだ知られていないのだろうか。それとも「反転表示」という言葉にとまどったのだろうか。実は色を反転させるような命令を出しているのではなく、表示領域を変更しているだけなのだ。それでは解答を発表しよう。

### ANSWER 1 文章をダイナミックに反転表示させろ!

レイヤーを2つ作り、背景色と文字色を互いに逆にする。<LAYER>タグの中でclip属性を指定し、背景レイヤーは「clip="0,0,400,100"」、前面のレイヤーは「clip="0,0,0,100"」とする。スクリプトでは、前面のレイヤーのclip.widthを徐々に大きくする。

```
<BODY onLoad="setTimeout('slider()', 100)">
<LAYER id="base" clip="0,0,400,100" bgcolor="silver">
<FONT color="navy">INTERNET MAGAZINE<BR>HTML TIPS & TRICKS</FONT>
</LAYER>
<LAYER id="slide" clip="0,0,0,100" bgcolor="navy">
<FONT color="silver">INTERNET MAGAZINE<BR>HTML TIPS & TRICKS</FONT>
</LAYER>
<SCRIPT language="JavaScript">
function slider() {
  document.layers["slide"].clip.width += 2
  if(document.layers["slide"].clip.width < 400)
    setTimeout("slider()", 10)
}
</SCRIPT>
```

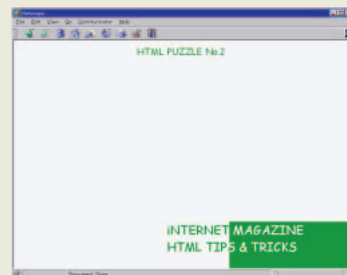


正解者：岩崎 典生さん

### ANSWER 2 反転表示部分をウィンドウの右下に表示させろ!

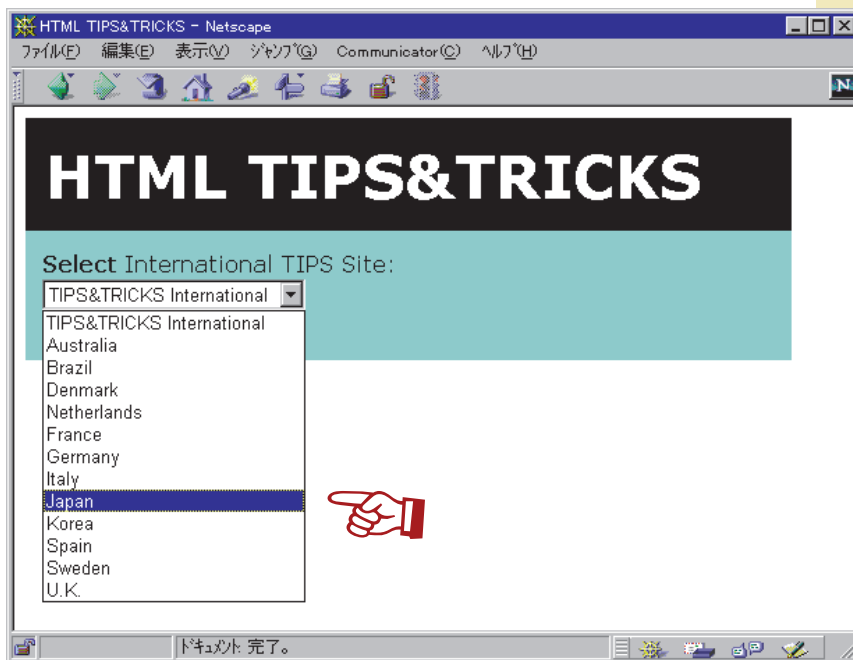
ブラウザの表示領域の高さと幅は、それぞれ「innerHeight」、「innerHTML」でわかる。ブラウザの表示領域からレイヤーの幅、高さを引いて、レイヤーの位置にすれば、右下に配置できる。

```
document.layers["base"].top = innerHeight - 100
document.layers["slide"].top = innerHeight - 100
document.layers["base"].left = innerWidth - 400
document.layers["slide"].left = innerWidth - 400
```



正解者：岩崎 典生さん

# プルダウンメニューでクイックナビゲーション



久しぶりに少しシンプルなTIPSを紹介しよう。プルダウンメニューを使って多数のリンクを小さくまとめるテクニックだ。窓の杜やNetscape社のサイトでジャンル選択や言語選択に使われているので、もうおなじみだと思う。マウスを押したときだけメニューが現われて、選択すると別のページにジャンプするというものだ。<A>タグでリンクを並べる書き方に比べて、プルダウンメニューが占める部分は小さくてすむので、すっきりとしたデザインのページを構成することができる。フォームを利用しているが、CGIではなく短いJavaScriptだけで実現できるので、ぜひ挑戦してもらいたい。



```
<FORM>
<SELECT onChange="location=this.options[this.selectedIndex].value">
  <OPTION SELECTED>TIPS&TRICKS International
  <OPTION VALUE="/au/index.html">Australia
  <OPTION VALUE="/pt/index.html">Brazil
  :
</SELECT>
</FORM>
```

## Point

プルダウンメニューを使ったページ選択の方法は2つある。1つはメニューを選んだ後にボタンを押して次のページへ移るもの。2つめは最近よく見かける、メニューを選択するだけで次のページが表示されるもの。今回は2つめの方法を紹介する。

上の例はNetscape社のトップページをもとにして、シンプルに書き換えたものだ。機能的には変わらない。

まずFORMを1つ作成し、<FORM> ~ </FORM>の中に<SELECT>タグを作る。次に、このプルダウンメニューで表示するアイテムを、<SELECT> ~ </SELECT>の中に「<OPTION>表示されるアイテム」という形で追加していく。<OPTION SELECTED>は最初から選択される項目だ。2つめ以降の<SELECT>タグの中には、VALUE属性を付けておく。VALUE属性の値は、アイテムが

選択されたときに表示するページのURLだけ（絶対URLでも相対URLでもどちらでもよい）。<OPTION>タグは好きなだけ増やしてかまわない。

さて、メニューアイテムが選択されたら、新しいページを表示させるようにしたい。<SELECT>タグの中にonChangeを付けて、JavaScriptの命令を書くことにする。こうしておく、メニューのアイテムが選択された瞬間に、このJavaScriptが実行されるのだ。JavaScriptは1文。

```
location=this.options
[this.selectedIndex].value
```

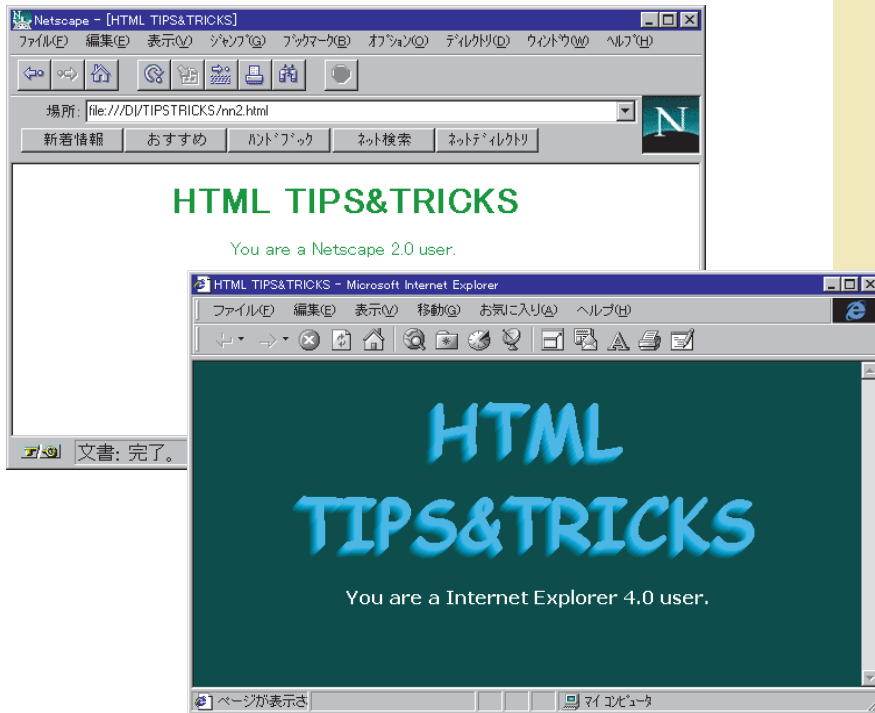
「location」には、ブラウザーに読み込ませるページのURLを指定する。「location.href」として

も同じだ。

「this.options[this.selectedIndex].value」が選択されたアイテムのURLになる。「this.options」は<SELECT>タグ内の<OPTION>タグの配列を表す。「this.selectedIndex」で選択されたアイテム（<OPTION>タグ）の番号が得られるので、あとは「value」からVALUE属性で指定したURLが取り出せる。

以上で、表示するページを、この<SELECT>タグの、選択された<OPTION>タグのVALUEで指定したURLに変更せよ、という意味になる。さあ、試してみよう。

# WWWブラウザを自動判別する



このコーナーでは、最新のWWWブラウザで利用できるTIPSを紹介しているが、古いWWWブラウザを利用しているユーザーのことを考えて、使ってみたいけれども使えないという読者も多いだろう。このTIPSを使えば、ユーザーが使っているブラウザを自動判別して、その種類やバージョンごとに異なったページにジャンプさせることができる。ジャンプ先のページには、それぞれのブラウザやバージョンに対応した内容を作っておけばいいだろう。これで安心してダイナミックHTMLなど、新しいブラウザでしか利用できないテクニックも思う存分使えるようになるぞ。



```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
<!--
sver = navigator.appVersion.charAt(0)
if (navigator.appName == "Netscape") {
  if (sver == 2) location.href = "n2.html"
  if (sver == 3) location.href = "n3.html"
  if (sver >= 4) location.href = "n4.html"
}
else if (navigator.appName == "Microsoft Internet Explorer") {
  if (sver <= 3) location.href = "e3.html"
  if (sver >= 4) location.href = "e4.html"
}
else
  location.href = "others.html"
!-->
</SCRIPT>
```

POINT

ブラウザの名前を調べるにはJavaScriptの「navigator.appName」を使い、ブラウザのバージョンを調べるには「navigator.appVersion」を使う。

```
sver = navigator.appVersion.charAt(0);
```

まず、「navigator.appVersion」の最初の1文字を変数「sver」に入れておく。sverは「2」、「3」、「4」などとなる。

```
if (navigator.appName == "Netscape") {
  if (sver == 2) location.href = "n2.html"
  if (sver == 3) location.href = "n3.html"
  if (sver >= 4) location.href = "n4.html"
}
```

ブラウザがネットスケープナビゲーターだったら、「location.href」を使ってそれぞれのバージョンに対応したページへジャンプするようにする。

```
else if (navigator.appName ==
"Microsoft Internet Explorer") {
  if (sver <= 3) location.href = "e3.html"
  if (sver >= 4) location.href = "e4.html"
}
```

インターネットエクスプローラの場合は注意が必要だ。「navigator.appVersion」の最初の文字は、バージョンが3の場合には「2」（Macintosh版は「3」）、バージョンが4の場合には「4」となる。

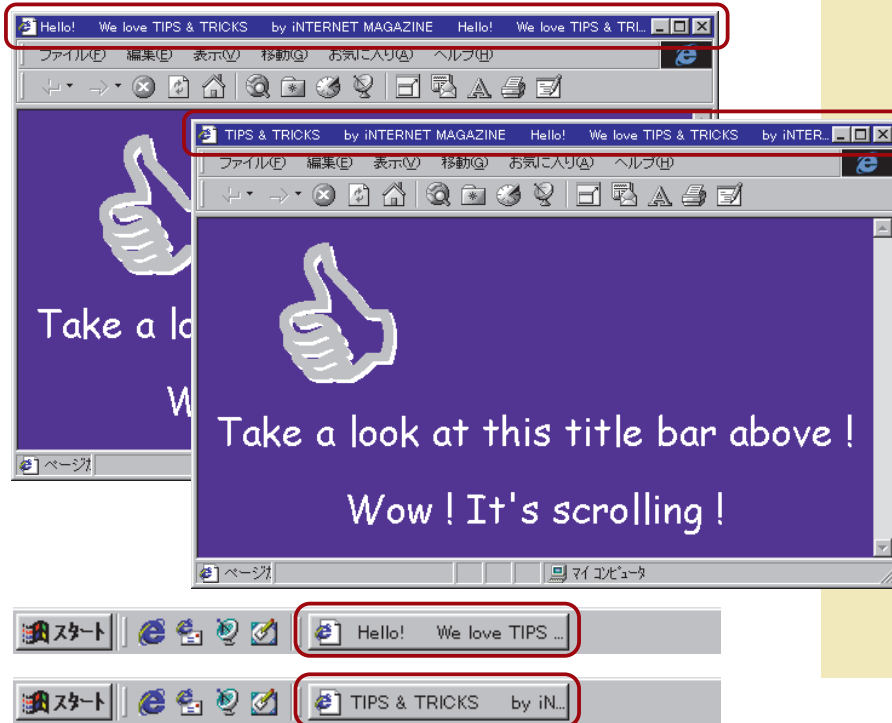
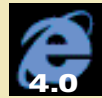
```
else
  location.href = "others.html"
```

この部分では、インターネットエクスプローラとネットスケープナビゲーター以外でJavaScriptに対応しているブラウザ用のページを指定する。

最後に、<NOSCRIPT>タグも覚えておこう。このタグの内容は、<SCRIPT>タグに対応していないブラウザだけに表示される。古いバージョンのネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラ、またはLynxのようなブラウザでアクセスしてきたユーザーがいても安心だ。以下のような一文を添えておくと、より親切なページになるだろう。

```
<NOSCRIPT>JavaScript未対応のブラウザ
をお使いの方は<A HREF="simple.html">
こちらのページ</A></NOSCRIPT>
```

## タイトルバーをアニメーション表示させる



このコーナーでは、ステータスバーのTIPSを何度か紹介してきた。文字が流れるアニメーション効果から、文字にマウスを乗せたときにコメントを表示させるTIPSまで、ステータスバーの使い道は広がった。では、あの効果がタイトルバーでもできると言ったらどうだろうか？ IE4.0では驚くべきことに、タイトルバーの文字を自由に操れるようになっている。ブラウザを最小化したときのタスクバーのボタンの文字まで動かせるぞ。JavaScriptを利用するが、難しい知識は必要ない。今までのTIPS&TRICKSを理解している読者ならできるはずだ。ぜひ試してみてほしい。



```
<SCRIPT LANGUAGE="JavaScript">
<!--
msg = "Hello! We love TIPS & TRICKS by INTERNET MAGAZINE "
msg += msg

function titleanim() {
    msg = msg.substring(2, msg.length) + msg.substring(0, 2)
    document.title = msg
}
setInterval("titleanim()", 150)
//-->
</SCRIPT>
```

### POINT

サンプルスクリプトを見てもらえばわかるが、かつて流行したステータスバーアニメーションのスクリプトとほとんど同じだ。

まず、メッセージを作成し、重ね合わせて長い文字列を作成する。JavaScriptはよくわからないという読者は、最初の「msg = " ~ "」の「 ~ 」部分を好きな文字に書き換えて、<SCRIPT> ~ </SCRIPT>を自分のHTMLファイルに書き込むだけでよい。

次に、一定の間隔で実行される関数「titleanim」を作成する。「titleanim」内でメッセージの文字列を操作して、アニメーションしているかのように見せる。おなじみの方法だ。

ステータスバーの場合と違うのは、このメッセージを表示する場所だ。ステータスバーに表示させるときには、「window.status=msg」としていた。タイトルバーに表示する場合には、「document.

title = msg」とすることになる。「document.title」は、HTMLファイルの<TITLE>タグの内容を表わす。これを動的に変更することで、タイトルバーの文字がアニメーションしているように見せかけているのだ。

あとは「setInterval("titleanim()", 150)」として、150ミリ秒ごとに関数「titleanim」を呼び出すようにしておけば、タイトルバーアニメーションの完成だ。これだけで、タイトルバーの文字が流れていくようになる。意外と簡単なので驚いたのではないだろうか？

ところで、今回のサンプルはIE4.0限定なので、ブラウザをチェックする必要があるだろう。さもないとページを開いたとたんにエラーが発生する。ここでは、前ページのJavaScriptを短くしたようなチェックスクリプトを紹介しておく。変数isIE4に「IE4.0かどうか」の値を入れておき、

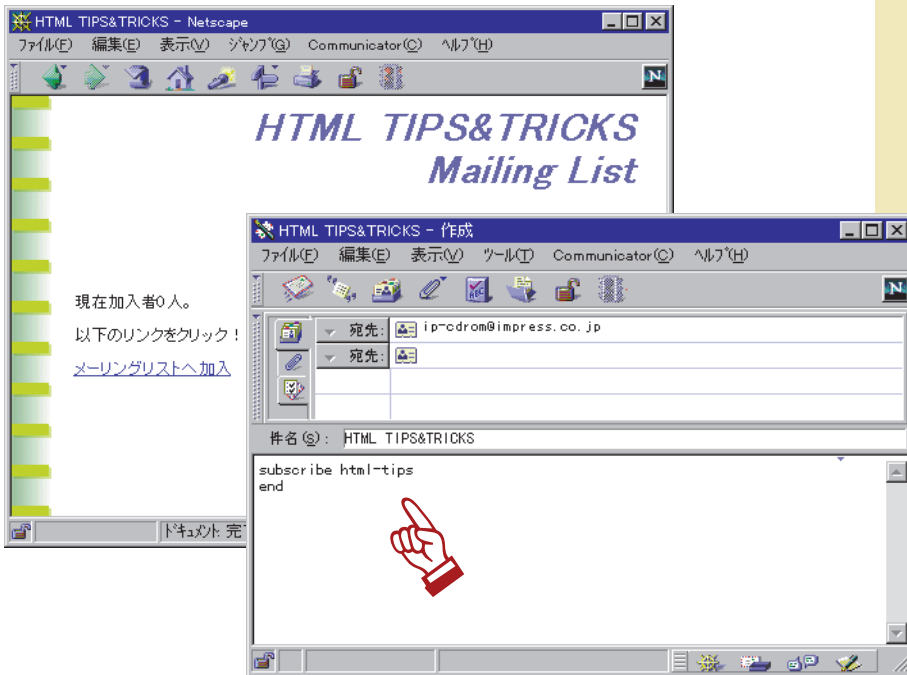
「if (isIE4)」で「setInterval」を呼び出すかどうかを決めるのだ。

```
isIE4 = (navigator.appName ==
"Microsoft Internet Explorer" &&
navigator.appVersion.charAt(0) >= 4)

if (isIE4) setInterval("titleanim()", 150)
```

これで、IE4.0のときだけ、タイトルバーがアニメーションするようになるぞ。メッセージの文字や、「150」という間隔をいろいろ変えて試してみよう。

## 電子メールのメッセージを自動入力する



以前このコーナーでは、メールアドレスのリンクをクリックすると、メールソフトにSubjectを自動的に入力させるTIPSを紹介した(1997年7月号)。<A>タグ内のメールアドレスに「?subject=」を追加するのだった。しかし、自動的に記入することができるのはSubjectだけではなかったのだ。今回は、メールの本文を自動的に入力させる方法を紹介しよう。Subjectと本文を自動的に入力させることができれば、メーリングリストへの加入メールなどの管理が楽になる。ブラウザでクリックするだけで必要事項を送ることができるので、ユーザーも安心だ。さっそく試してみよう。



```
<A HREF="mailto:ip-cdrom@impress.co.jp?body=subscribe%20html-tips%0D%0Aend">
メーリングリストへ加入</A>
```

### POINT

「subject=」と同じく、<A>タグ内のメールアドレスを少しだけ工夫すれば、電子メールの本文を自動的に入力させることができる。まず、「<A HREF="ip-cdrom@impress.co.jp">」のように通常のリンクを作る。このアドレスあてに以下の本文を書いたメールを送ると、メーリングリストに加入できることとする。

```
subscribe html-tips
end
```

この内容をメールソフトに書き込むには、メールアドレスの後に「?body=本文の内容」を追加して、以下のようなリンクを作る。

```
<A HREF="mailto:ip-cdrom@impress.
co.jp?body=subscribe%20html-tips
%0D%0Aend">
```

「subject=」と「body=」を組み合わせて使うこともできる。組み合わせる場合は、以下のように「&」で区切って並べる。「?」はメールアドレスの後ろに1つだけ付ける。

```
<A HREF="mailto:ip-cdrom@impress.
co.jp?subject=HTML%20TIPS%26
TRICKS&body=こんにちは.">
```

ただ残念ながら、「body=」には対応していないメールソフトもある。現在、Microsoft Outlook Express、Netscape Messengerなどのメールソフトが対応しているが、対応していないメールソフトのユーザー向けの案内も書いておいたほうがいいだろう。

なお、「cc=送信したいアドレス」を加えると、メールソフトにCCを指定することもできる。

### 特殊文字の指定方法

subjectやbody、ccを指定するときに注意してほしいのは、特別な文字を使う場合には、以下のように必ずエスケープシーケンス(「%」+16進数の文字コード)を利用することだ。

改行	%0D%0A
半角空白	%20
カンマ	%2C
%	%25
&	%26
=	%3D
?	%3F

参考 <http://www.imc.org/draft-hoffman-mailto-url>

# HTMLパズルに挑戦しよう

## 隠されたトリックを解き明かせ！



今月のテーマ

### ・入れ替えを制する

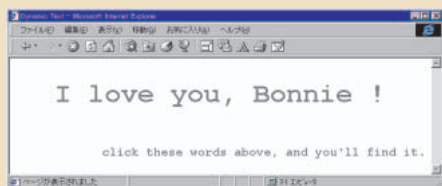
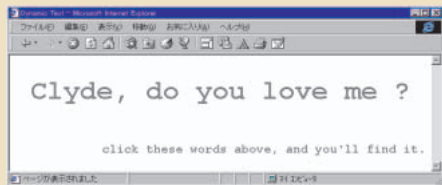
ダイナミックHTMLでページの内容をダイナミックに変更する。でもアニメーションや色、背景の変更ばかりではいずれあきてしまう。もっと実用的な例がほしいという読者も多いだろう。ダイナミックHTMLでできることはアニメーションだけではない。文章の内容そのもの、「コンテンツ」を操作することもできるのだ。そこで今回は、文章の内容とスタイルをダイナミックに入れ替えるパズルに挑戦していただく。トリックがわかったらすぐに解答を送ってきてほしい。正解者には抽選で1名にオリジナル腕時計をプレゼントさせていただく。なお、正解は来月のこのコーナーで発表する。それでは頭をやわらかくして、今月のテーマ"入れ替えを制する"にチャレンジ！

### 「HTMLパズルに挑戦しよう」宛先

正解がわかった人も、わからなかった人も、ご意見、ご感想など何でもOK、次の宛先にメールしよう。用件の欄には必ずHTML TIPS & TRICKSの1行を忘れずに。あなたの挑戦を待つ！

✉ ip-cdrom@impress.co.jp

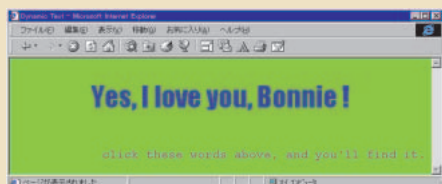
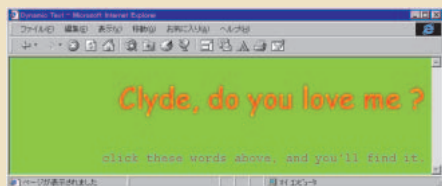
## QUESTION 1 文章をダイナミックに入れ替える！



左のサンプルに書かれているのは何の変哲もないただのテキストだ。しかし、「Clyde, do you love me?」の文字をクリックしてみると……書かれている内容が一瞬にして別の文章に入れ替わり、「Yes, I love you, Bonnie!」となる。これはIE4.0で使えるテクニックなので、レイヤーを使っているわけでも、表示と非表示を切り替えているわけでもない。この部分のテキストがそっくり入れ替わっているのだ。さあ、わかるだろうか？ スクリプトを少々使っているが、たいした長さのものではない。なお、解答には、左のサンプルのフォントや色をそのまま再現する必要はないので、肝心な部分だけを書いて送ってほしい。

**ヒント** IE4.0で特定箇所のテキストを操作するには……

## QUESTION 2 スタイルをダイナミックに入れ替える！



第1問ではシンプルにテキストを入れ替えた。こんどはさらに、テキストのスタイルを変更させてみよう。左のサンプルを見てほしい。第1問と同じく文字をクリックすると、書かれている内容だけではなく、フォントと色が変更され、表示位置も右端から真ん中に移動している。IE4.0のダイナミックHTMLを使うのがポイントだが、わかっている人ならば、あっという間に書けるだろう。ややこしいことをしているわけではない。仕掛けはとても単純で、スタイルシートを書き、第1問のスクリプトに何行か追加するだけだ。なお、第1問、第2問ともにIE4.0の問題なので、JavaScriptとVBScriptのどちらを使ってもかまわない。

**ヒント** IE4.0で特定箇所のスタイルをまるごと入れ替えるには……



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)